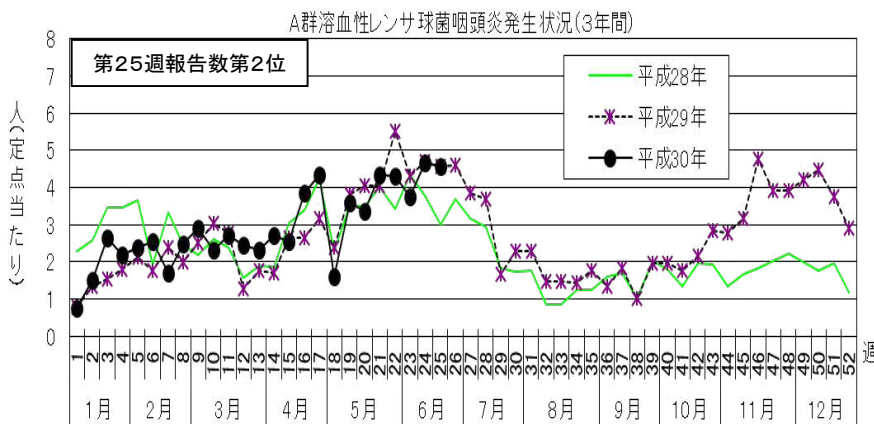
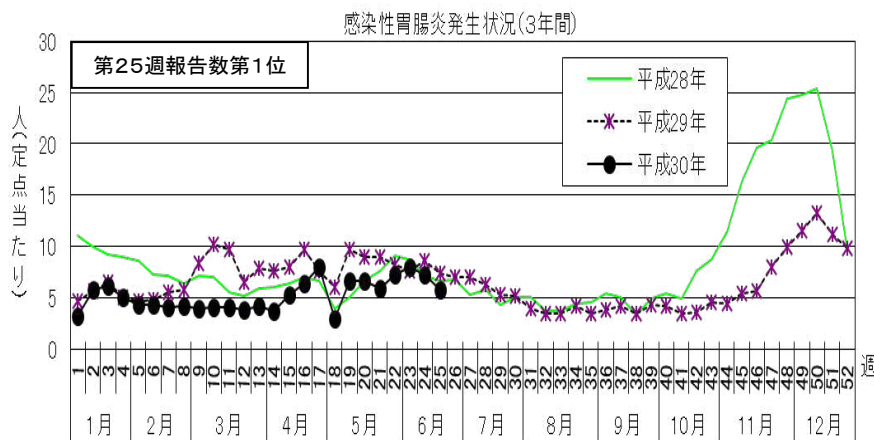


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月18日（月）～平成30年6月24日（日）〔平成30年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.81人と前週（7.30人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.57人と前週（4.68人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（2.65人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



百日咳の報告数が増加しています！

百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症で、典型例では特有のけいれん性の咳発作がみられます。

川崎市内においては、平成30年第23週（6月4日～6月10日）以降、特に中原区、高津区などの限定された地域からの報告数が増加しています。年齢階級別では5-9歳が多く、14歳以下が全体の76.3%を占めていますが、ほとんどの事例でワクチン接種歴がありました。周囲で百日咳の流行があり咳症状がみられる場合には、特に乳児との接触は避け、早めに医療機関を受診しましょう。

百日咳とは？

【感染経路】

飛沫・接触感染

【潜伏期間】

おおむね7～10日間

【症状】

臨床経過により3期に分けられます。

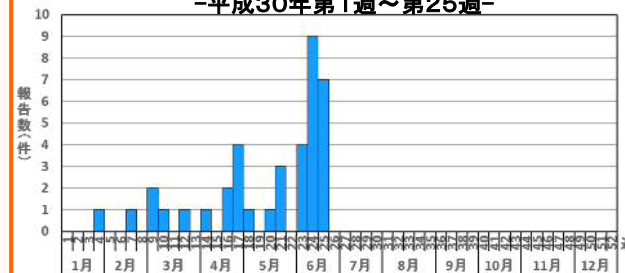
- ・カタル期：かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ・痙咳期：短い咳が連続的に起こり、続いて、息を吸う時に笛の音のような音が出る咳発作がみられる。
- ・回復期：激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなる。

【予防方法】

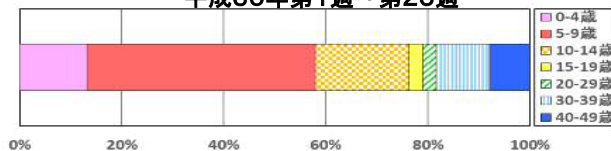
百日咳含有ワクチンの接種（DPT-IPVなど）



川崎市における百日咳発生状況
-平成30年第1週～第25週-



川崎市における百日咳年齢階級別発生状況
-平成30年第1週～第25週-



※学校保健安全法では、特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで出席停止です。